



新潟市立江南小学校

令和7年9月9日

COMPASS

考える部便り No.15



ご感想・研修へのご意見
お待ちしております。←

どんな夏休みの事後指導をしましたか

夏休みになる前に学習面や生活面の事前指導をすることは当然のことです。長期間の休みだからこそ心配になることも多いです。では、夏休みの事後指導はいかがでしょうか。どんな事後指導をしましたか。考える部として、夏休みの事後指導、特に学習面に絞って提案します。

考える部便りNo.15では、子どもたち自身が「自立した学習者」になったか確かめられる場について載せました。その場は家庭だと考えます。学校から家に帰って、家庭学習をやろうとすると、ゲームの誘惑があり、それに打ち勝っても、困ったときに相談できる先生や仲間がないので、途中で挫折するときもあるかもしれません。普段でも難しいことです。夏休みなどの長期休業中は、さらにハードルが上がります。次の日になったら、登校して、先生や友達に相談できる機会がなくなります。長期休業中に、子どもたちは、普段との違いを実感し、自分に必要な力に気付く絶好の機会になります。その気付きを、夏休み明けの事後指導で、子どもたちとしっかりと共有したいです。自分に必要な力を授業で育み、それが身に付いたかどうか家庭学習をすることで確かめる。うまくいかなければ、翌日学校で先生や仲間に相談する。このサイクルを繰り返すことで、「自分に必要な力」を高めていきたいです。そして、次の長期休業中にその力が本当に身に付いたか確かめます。そう考えると、長期休業中の課題の出し方にも、子どもたちの伴走者としての工夫が必要になります。

4年生では、夏休み明けに子どもたちにアンケートを実施しました。その一部を紹介します。夏休み中の学習を振り返って、自分でよりよい方法を考え、自ら学習に取り組むには、「やる気を高める力」「苦手なことでもがんばる力」が必要だと考えている人が多いことが分かりました。この結果

を学年集会で子どもたちと共有して、どうしたら、この2つの力が高まるか一緒に考えていきたいです。また、子ども自身が考えた回答として「ほどよく休憩を取る力」があることにも着目しています。この回答をした子は、2つの力を高めるための自分なりの対策に気付いている可能性があります。子どもたちの気付きを大切にしていきたいです。

夏休み中の学習への取組をふり返って、自分でよりよい方法を考え、自分から学習に取り組むには、どんな力が必要だと思いますか。(複数回答可)

